

八戸

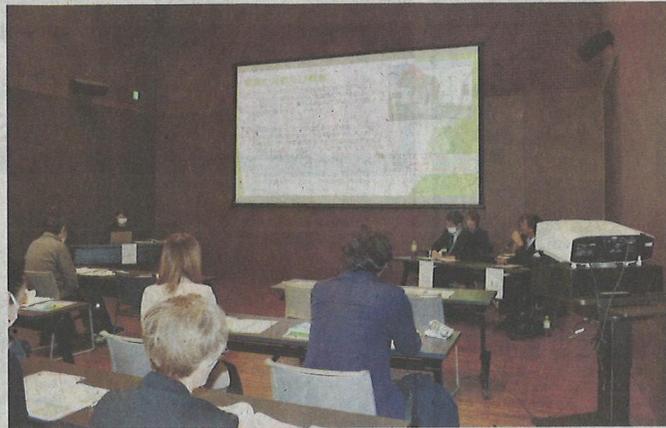
外国人介護人材 現状と課題探る

八戸学院がセミナー

八戸学院地域連携研究センターは15日、八戸市美術館で外国人介護人材に関するセミナーを開いた。八戸市や南部町、介護老人福祉施設、八戸学院大の担当者がそれぞれパネリストとなり、介護の現場で働く外国人技能実習生の現状と課題を探った。

本年度からスタートした市の委託事業。介護業界の関係者や地域企業、住民ら約30人が参加した。

八戸市と南部町の担当者が支援事業を報告したほか、実際に受け入れを行う施設職員が、技能実習生の働きぶりや、日本での生活を楽しむ様子などを紹介した。また、留学生を対象に介護人材の育成、確保を担う八戸学院大短期大学の活動についても周知。それぞれの立場から、介護人材確保に向けた提言を行った。



外国人介護人材受け入れの現状と課題を探ったセミナー

コーディネーターを務めた同大短大部の小川あゆみ教授は取材に「水面下で動くのではなく、目に見える形でサポートしあえる環境をつくることが大事になる」と話した。
(金濱千優希)